

南朝 黒木御所跡のこと

清水 勝

前回の『龍泉寺』の次には、天武天皇が造営したと伝わる『天河大辨財天社』を訪ねた。水の神、芸能の神、財宝の神として信仰され、高野詣と併せて多くの人々が訪れる。ここは日本五大弁財天(注)のひとつで、拜殿正面に吊るされた五十鈴を大きく振ってお参りをした。この神社の特徴は能舞台があることで、神前での能の奉納が毎年行われている。その他 神楽や音楽奉納にも使われている。

天河大辨財天社のすぐ傍に『南朝 黒木御所跡』があった。南朝の御所といえば吉野町の「吉野朝皇居跡」が知られているが、天川村坪内には仮の御所として四十七年間置かれたといわれており、そのために南朝への崇敬が特に篤かった。天川郷の郷土は『位衆傳御組』^{いしゅうおとなくみ}を設立し、南朝天皇の身辺警護を担った。今は人口減少でごく限られた形でしか残っていない。そんな中で南北朝時代から続く御朝拜の伝統は受け継がれており、村の精神文化を象徴する行事として毎年二月十一日に古式行事『御朝拜式』を営んでいるとガイドの方から伺った。

『悠遊』で書いた奥吉野にある川上村の郷土たちの後継者が、後南朝最後の天皇自天王的即位式であった二月五日に行われる『御朝拜式』と併せて感慨深いものがあった。なお、『南朝 黒木御所跡』は次に訪ねた十津川村にもあった。ここは後醍醐天皇の第三王子 護良親王^{もりよし親王}が足利軍に追われて山伏の姿で十津川村に逃げ込んだ際に、土地の豪族竹原八郎が親王のために仮宮殿を造営した御所の跡で、有名な「谷瀬^{たにせ}のつり橋」の近くにある。

今宵の宿泊地 橋本市に向かった。夕食は各自自由にとのことであった。レストラン風の居酒屋を見つけ「何でも読もう会」で味わった和歌山の銘酒『黒牛』を注文し、つまみは和歌山名産「クジラの刺身」とした。心地よい気持で、役行者、前鬼、後鬼、女人結界門、そして南朝をこよなく愛する吉野町、川上村、天川村の人々を思いながら一献傾けた。

(注) 【五大弁財天】

- ・ 厳島神社
- ・ 竹生島神社
- ・ 江の島神社
- ・ 金華山 黄金山神社
- ・ 天河大弁財社